

令和5年度 学生による地域フィールドワーク研究助成 中間報告書

大学等名：富山大学

代表学生：高村 将斗

指導教員：藤本 武

研究題目 (応募部門)	No.8「若者に選ばれるまちづくりへの提案」 地域調査を通じた氷見市の魅力発見と発信・交流
研究概要	氷見市では現在、地域おこし協力隊等の活動により県外からの移住者をサポートする取り組みが推進されている。とはいえ、少子高齢化とともに若年層を中心とした人口減少に直面している。また海の幸を主とした食文化が知られるものの、“移住先”として知名度が高いとは言えないのが現状である。 そこで本研究では、①昔からの地域住民、②市外からの移住者の双方にフィールドワークを通じて聞き取り調査を行うことで、氷見市に住む魅力や課題を明らかにする。地元では意識されていない魅力を探るとともに、課題を把握することで、その解決策を模索するとともに、若い学生の視点を導入することで、若者に選ばれるまちづくりの提案を試みる。
これまでの活動状況と今後の活動予定 (300字程度)	今年度氷見市内でフィールドワークをするという事で、4月に氷見市役所へ挨拶に伺った。その後7月まで隔週のペースで訪れ、地域住民から聞き取るなどして、各々のテーマに沿って現地調査を実施した。まるまげ祭りや獅子舞の祭事、藤箕製作の継承、市役所の移転の影響、商店街の活性化、住民による地域交流活動、魚食をめぐる変化と近年の取り組み、果樹栽培を通じた特産品づくりなど、テーマはメンバーによって様々である。9月下旬には集中調査という形で1週間にわたって通い調査を行い、さらに理解を深めることができた。 今後の活動予定としては、これまで各人が調査したことをまとめる調査報告書の執筆を年内行い、年度内に調査報告書を発行する予定である。また各人の調査の過程で気がついた提案に繋がれそうな魅力や課題をとりまとめ、成果発表に向けて年明けから本格的に準備をしていく予定である。
新型コロナウイルス感染拡大の影響で、当初予定と変更がある場合は変更点を記述ください。	



写真 まるまげ祭りの調査



写真 藤箕製作伝承の館での調査



写真 水産加工工場でイワシのみりん干しを製造する現場



写真 仏生寺地区の住民によるカローリング大会の様子



写真 氷見市中央町商店街の防災共同ビル



写真 現在の氷見市役所

校舎や体育館を再利用したことがわかり、また、旧氷見市役所でその狭さが問題になった駐車場も、現在では十分な広さを確保できていることがわかる。